

野沢温泉村へ定住

～潜在的移住者をサポートできる仕組みづくり～



野沢温泉村 C 班 Awazon

政治経済学部	3年	丸 宗揮
法学部	3年	岩澤 瞭
政治経済学部	2年	西村 ほのか
野沢温泉村		久保田 覚

<目次>

1. はじめに

2. 現状と課題

3. 提案：「移住・交流課の新設」について

4. 施策①：移住アドバイザーについて

 施策②：インターン期間について

 施策③：広報媒体の活用について

5. おわりに

6. 参考資料

1. はじめに

実際に住んでいる人のこと、これから住むことを考えている人のことを第一に考えた地域づくり。この方針を第一義においた私たちは方針に沿った提言を行うためには今回野沢温泉村における二度の現地調査において「当事者の声」に耳を傾けてヒントを得ることが重要であると考えた。そしてそれを中核に外部からの目線を取り入れつつ住民の方々の要望を提言へとまとめる仲介役として地域づくりの一助であろうとする。

今回の野沢温泉村における調査・政策提案の軸として各チームへと与えられた課題の中から本チームでは大枠のテーマとして定住人口増加施策を選択し、それに基づいた小テーマの中から地方への新しいひとの流れをつくるという側面でアプローチを試みた。私たちはその定住人口の増加のための政策として移住者と行政における協力関係による「移住・交流課」の設置を頂点とした大きくは3つの企画を基に移住を考えている人、いわゆる“潜在的移住者”をターゲットとした提言を行う。またこの提言には既に移住をしている人からの体験談を基礎としていく。また3つの企画とは既存の移住者による潜在的移住者へのケアを中心とした役割を持つ①移住アドバイザー、実際に移住を考えている地域で体験的に生活することで実態を把握してもらい取り組みを中心とした②インターン期間の導入、最後に既存の広報誌である「広報のざわおんせん」を移住者にも効果的に利用してもらうことを主な目的とした③広報媒体の活用のものであり、これらの管轄をするのが「移住・交流課」の役割となり、加えて既存の移住者や住民の参加・協力も合わせた提言を本報告書において行っていく。

2. 現状と課題

野沢温泉村は長野県北部に位置しており、人口は3707人、世帯数1263世帯、面積約58km²の地域であり、当地域は近年注目される「増田レポート」における消滅可能性都市に指定されており、県内でもその2番目の推移となっている。このため定住人口の増加が課題と考えられている。また産業としては外湯が特徴的な温泉や冬季のスキーをはじめとする観光産業が主なものとなっているが、グリーンシーズンにおける観光客の集客の難航や業種の少なさから交流人口・移住人口の増加に歯止めがかかる点で課題が存在している。更に村社会という点から地域としてのつながりが強く、地域コミュニティの助け合いや協働などの良い影響を与えあう環境を持ち合わせている一方で、外からの移住者がその地域コミュニティへ溶け込むことが難しい状況も作りだしていると考えられ、移住者サポートの面で課題が存在している。

3. 提案：「移住・交流課の新設」について

私たちは潜在的な移住者を多面的にサポートできる「移住・交流課」の設置を提案する。その理由としては地方創生総合戦略の資料を見ても「本村の魅力情報を発信することにより、村外からの来訪者（交流人口）の増加、ひいては定住化へと結び付けていくことが必要・・・」との記載があり、行政主体で移住を促進・定住化へと推し進めていくことを文書化しているにもかかわらず、野沢温泉村には現在、移住・定住・交流人口の増加を専門的に担当する課が設置されていないことが挙げられる。また一方で隣接する飯山市では移住・定住係が設置されており、その役割として空き家情報の管理やハローワークとの連携で行う求人情報の提供などを担っている。それに加えて補助制度や農村体験情報、地域の魅力の宣伝などの多面的なサポートの面では「飯山市ふるさと回帰センター」へのリンクを通してその充実を図っている。更に、野沢温泉村が所在する長野県でも移住・交流の窓口を作っており、移住・交流を促進するためのイベント情報の提供や地域の魅力を伝え、定住人口の増加を目指す取り組みを行うサイトへのリンクなどもネット上で記載している。



このように他自治体においては移住・定住・交流人口の増加策として専門の窓口を設置しているところが多いことが分かる。この点において、野沢温泉村への定住人口の増加を図る上では専門的な窓口を設けることが必要であると考えられる。また住民からの意見を反映させると、私たちが実際に移住者への取材を行った際には「移住してきた年に大雪に見舞われ、初めての雪かきが大変だった。」や「今は子供を介して仲良くなったが、子供がいなかったときには村になじむのが難しく、1年間ほどかかった。」「公園などが少ないた

めママ友の交流がない。」などの I ターンによる定住をした主婦層が移住後に苦勞をしたというケースが多く見られていたことから村の特質やその生活実態を事前に伝えられうる体制や移住後のケア等が直接的・間接的にできる体制が必要であると考えられる。更に I ターン友の会と呼ばれる移住者同士のコミュニティへの取材の際には「実際に移住と民宿経営の相談を受けたことがある」や「補助・移住体験の企画・空き家情報などが他地域比べ少なかった」、「初めは村のしくみや勝手がわからなかった」、「HP に『移住者を歓迎します』の一言があるだけで移住先の選択肢になる」などの多くの意見を得られたが、やはりこれらのように HP の活用や空き家、求人の状況把握、補助金などを専門的に対応し、解決のできる窓口が現在は存在していないことから私たちは移住・交流課の新設、及び移住者との協力関係の構築を強く提言したい。また具体的な職務・役割に関しては次章に記載していく。

4. 施策①：移住アドバイザーについて

施策②：インターン期間について

施策③：広報媒体の活用について

【私たちの提案する移住・交流課の3つの企画内容】

① 移住アドバイザー

② インターン期間

③ 広報媒体の活用

(①に関する現状分析)

野沢温泉村では移住を希望してもそれに対するサポート機関が少なく、またそれに関連する情報も十分ではないのが現状である。そのため村との繋がりの無い若年層の I ターン者には特に移住のハードルが高く、また移住した後も村に馴染むまで時間がかかったとの話を多々聞いた。そのような現状を打破するためにも移住前後を問わず、総合的なサポート

をする統括機関が必要ではないかと考え、移住アドバイザーという制度を考案する。

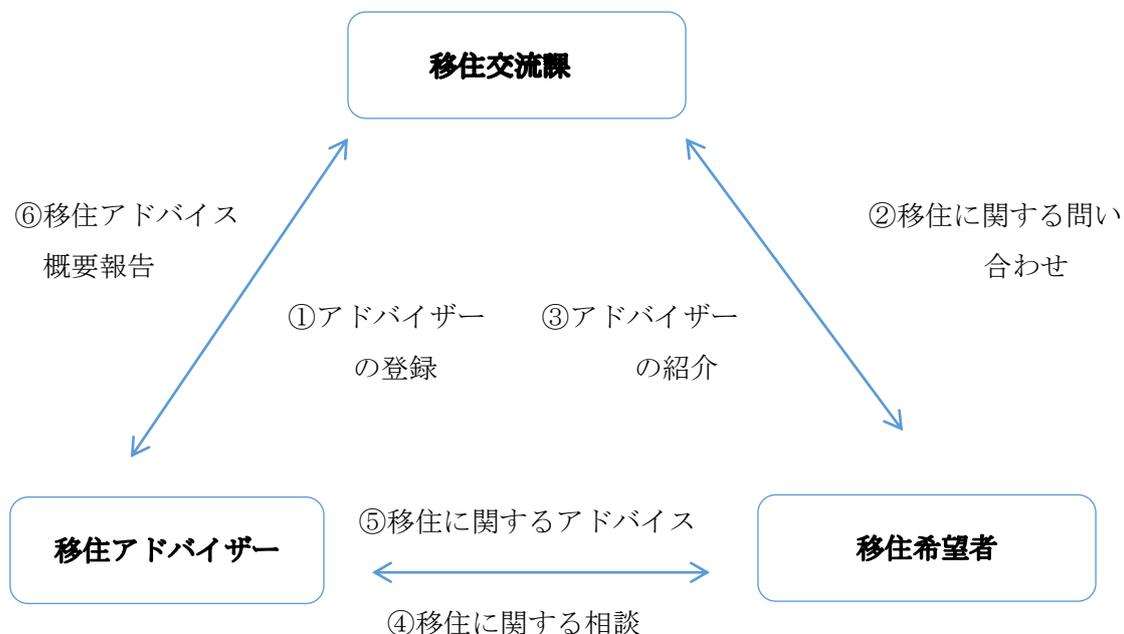
【移住アドバイザーとは】

移住アドバイザーとは、実際に野沢温泉村に移住してきた人が、新たに移住したいと考えている人を対象として村の魅力や生活の様子、または移住に関する悩みの相談など、移住者ならではの視点でアドバイス等を行い、また移住後においても実生活における様々な悩みの相談に乗ることで移住者と地域との結びつきを深め、移住しやすい村作りを目的とした制度である。

〈組織構造〉

- ・ 移住交流課のもとで村内に暮らす移住者をアドバイザーとして登録
- ・ 移住交流課はアドバイザーの活動に必要な情報の集約・提供を行い、活動をサポート
- ・ 移住希望者は移住交流課に連絡をすることで登録されたアドバイザーの紹介を受ける
- ・ アドバイザーによる個別相談、移住交流課へのフィードバック
- ・ 紹介を受け実際に移住してきた人を新たに移住アドバイザーに登録する

【移住アドバイザーのフロー】



〈仕事内容〉

- ・ **移住に関するアドバイス**：移住アドバイザーに関する問い合わせを受けた移住交流課は移住希望者のタイプ（Iターン、Uターン、Jターン）に合わせて移住アドバイザーを紹介、また移住アドバイザーは移住交流課の提供情報（空き家情報やハローワーク等の求人情報等）を基に野沢温泉村に関する説明や、移住希望者の個々の質問や相談に対応する。
- ・ **遠隔地におけるアドバイス**：遠隔地などに住んでいる等の事情で実際に野沢温泉村に来られない人々に対しても野沢温泉の良さを知ってもらうため、完全予約制にして無料通話アプリのスカイプ等を活用し遠隔地での個別相談にも応じる。
- ・ **インターンへの協力**：後述するインターン期間においても、実際にインターンに来た人を対象して相談等に応じる。
- ・ **広報誌などへの協力**：広報媒体の活用に合わせて移住交流課のもとで移住者向けパンフレット等を作成する。移住アドバイザーはそこでの移住者向けコーナーでのインタビューなどに協力し、その広報媒体を実際のアドバイス等に用いる。
- ・ **移住後に関するアドバイス**：野沢温泉村へ移住後において村独特の文化などの村人には当然でもIターン等で外から来た人には分かりづらいルールなどがある。そのような移住者ならではの悩みの解消のために移住後にも移住アドバイザーが積極的にアドバイスを行い、移住者が村にとけ込みやすくするサポートを行う。

〈②インターン期間に関する現状分析〉

野沢温泉村は観光地として毎年多くの人々がやってくるが、そのなかで村の実生活に触れることは難しい。移住とはその人の人生を左右する出来事であるが、観光客は観光地としての野沢温泉村しか知らず、そのイメージだけで実際に移住を決断することは困難である。そのため少しでも野沢温泉村をリアルに感じてもらい、村での具体的な生活イメージを持ってもらうためにインターン期間を設けることを提案する。

【インターン期間】

移住者にとって住んだことの無い場所へ移住するという事は、今後の人生全てを左右する一大決心であるため、実際に見知らずの土地に住居を構えることは難しい側面がある。そのためこの村に移住する前に、実際にこの村に体験移住という形でインターン期間を設けることで、野沢温泉村の四季の魅力や実生活などを知ってもらい、若い世代を含め多くの方が移住を決断できるようにすることを目的とする。

またこのインターンにより移住を決断した人に対して住宅助成金などのインセンティブを与えることで、代わりに移住アドバイザーに登録し活動してもらうことで移住による人口増加の流れを継続させる。

〈プログラム概要〉

- ・ **農業体験プログラム**：夏期の野沢温泉村を知ってもらうために農家の協力のもと一週間の農業体験プログラムを行う。またこのプログラムでは将来農家を希望する若者と担い手のいない農家を直接結びつけ、移住者に安定した雇用を創出させることを目的とする。宿泊先には既存の宿舎を無料で貸し出し、原則参加者負担は交通費と食費のみとするこ
とで若年層の積極的参加を促す。
- ・ **観光体験プログラム**：冬季の野沢温泉村を知ってもらうために民宿等の協力のもと住み込みで仕事の体験をし、同時にスキーなどの観光を目的とする一週間のプログラム。野沢温泉に移住して来た者の中には、雪国における生活を一切経験してこないまま移住してきた為とても苦勞した語る人がいたが、このプログラムには雪に対して少しでも慣れてもらい、移住する際の心理的抵抗を軽減することを目的とし、同時にスキー等を含めた雪国としてのこの村の良さを知ってもらう為のプログラムである。
- ・ **企業訪問ツアープログラム**：このプログラムは現在、野沢温泉村において移住したくても仕事が無いという問題解消のため、移住と雇用を直接結びつけるために移住交流課がハローワークと連携することにより、求人のでている複数の企業に対しプログラム参加者がツアーに赴き職業体験をするプログラムである。現在野沢温泉村では運送、介護、福祉、建築等の求人がでているが、移住者は実際に様々な職場で働くことによって自分にあつた職場を見つけることができ、また企業としても必要な人材に対してアプローチすることが可能なため、村全体として雇用問題の解決促進に繋がる。
- ・ **移住者の両親向けツアープログラム**：若者がIターンで移住する際に見知らずの土地で子供が生活することに対して不安を感じる両親がいるが、そのような人達を対象として実際に野沢温泉村に来てもらうことでこの村の魅力を伝え、また移住に対しポジティブなイメージを持ってもらうことを目的とした1泊2日の観光プログラム。またこのプログラムでは実際にこの土地に移住してきた人達〈移住アドバイザー〉の体験談などを交えることでより一層の理解を深めてもらう。

自治体から住民へ地域に密着した情報を提供してきた広報誌が、プライバシー保護の間

題により、地域に密着した情報の提供を自粛している自治体が増えている。また、顔写真の掲載等も、第三者に悪意に利用される可能性があるという事により控えている自治体もでてきている。その中で、野沢温泉村の広報紙は地域に密着した広報紙作りに励んでいる。広報紙は、住民と自治体の最大のコミュニケーション手段であり、行政情報を正確に分かりやすく伝え、市民の皆さんの行動を誘発する役割を担っている。いままで村内で作りあげた他の自治体にはない魅力をもつ、そんな住民にとって身近な広報紙をもっと生かしたいと考えた。

(提案)

- ①村民参加型の紙面づくり
- ②スマホ、タブレット端末用の無料アプリ「i広報紙」の活用
- ③外部に向けた情報の提供（移住・交流課との協力）

<提案①村民参加型の紙面づくりについて>

(現状分析)

まず、表紙をみると一面、村民の写っている写真が目につく。「広報のざわおんせん」は他の自治体の広報紙と比べても写真（顔写真）を多く使用している。そのため、村の様子がよくわかる。村内の小学生に表紙を見せたら「〇〇ちゃんのお父さんだ」と教えてくれた。村の暮らしぶりがわかり、村民に近い媒体になっている。

次に各コーナーについて述べる。まず、「未来の村の主役たち」のコーナーだ。村内の幼稚園・小学校・中学校の子ども達の様子がわかる記事になっている。季節の行事の様子を写真付きであるのはもちろん、子ども達の感想も作文の形式で載せている。子ども達も自分が掲載されたことで広報紙を手取ることもあるだろう。しかし、村内には広報紙に自分が写っていることを知らなかった子どももいた。

つぎに「村民の動き」、「フレッシュ野沢人！！」というコーナーである。こちらは村民の結婚・子どもの誕生情報や移住者の自己紹介文が掲載されているものだ。おじいさんが入院するときになにが欲しいか尋ねたところ「広報のざわおんせん」と答えていた。このように、この広報紙が年配の方に愛されている所以は、この住民の顔や情報が手に入るからだろう。



以上をふまえると、広報誌は「お知らせ型」と「情報共有型」が非常に充実したものになっている。

(活用法：村民参加型の紙面づくり)

これまで施策の対象者にすぎなかった住民が、今後は自治の主人公として登場することが求められる時代になった。今後、これらの住民を行政のよきパートナーとして認知していくことが求められる。そのためにも住民参加型の紙面づくりは欠かせない。住民がある問題についてどのように考えているのか、行政側から住民に問題を投げかけて投稿してもらうコーナーを想定している。また、住民が好きなことを書くことのできる紙面の提供である。現状で実現されていることもあるが、公共サービス・施設等の利便性向上、より良く楽しく村で生きるための知恵・知識の提供も充実させたい。

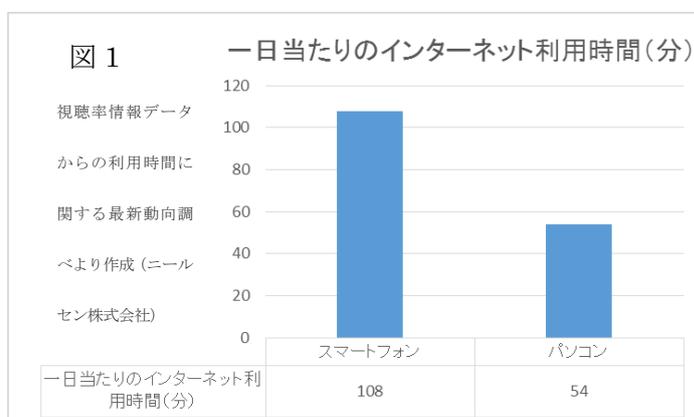
<提案②スマホ、タブレット端末用の無料アプリ「i 広報紙」の活用>

(現状分析)

野沢温泉村のHPにて「広報のざわおんせん」は公開している。(平成 27 年 1 月号広報～平成 27 年 5 月号広報 2015/9/21 現在)しかし、経費の問題で更新することが難しいこともあり、なかなか毎号を掲載することも困難になっている。以前はカラーだったものも現在は同じ理由で白黒の写真になっている。

(活用法：スマホ、タブレット端末用の無料アプリ「i 広報紙」の活用)

現在、問題にあがっている経費の問題を解決し、広報誌を手軽に読んでほしいと願う。そこで私たちは、スマホ、タブレット端末用の無料アプリ「i 広報紙」の活用を提案する。株式会社ホープが提供する「i 広報紙」とは無料アプリのことで、ダウンロードし登録すると、毎月広報紙の通知が届くものだ。気になった記事を切り抜き、ツイッターやフェイスブックで共有することもできる。自治体もユーザーも無料で利用できる点に最大の利点を感じる。全国で 240 の自治体が導入している。スマートフォンによるインターネット利用



が増えている点を考慮すると、野沢温泉村のHPでの掲載でもよいがスマートフォン対応のほうがニーズに合っていると考える。図1を見るとパソコンよりスマートフォンを利用する時間の方が多いとわかる。

子育てをしている主婦にとって

必要な情報は「子ども関連」「地域のイベント」「保健・医療関連」である。主婦達にとって広報誌は単なる読み物ではなく、実際に利用し、行動するために欠かせない情報源である。紙の媒体でもいいが、どこでもすぐにこういった情報が手に入ることができるので子育てをする人にも有効だろう。一旦、村を転出した人も簡単にスマートフォンで見ることができる。様子がよくわかるので村を気にかけることができる。

<提案③外部に向けた情報の提供（移住・交流課との協力）>

（現状分析）

内部向けである。つまり野沢温泉村に住む人向けの人のものになっている。

（活用法：外部に向けた情報の提供（移住・交流課との協力））

読み手の対象者は移住者を想定し、定住広報の充実やUI ターンの促進として、地域への定住（移住）や半定住の情報を希望する。

「フレッシュ野沢人！！」のほかにも移住者の暮らしがみえるコーナーを設けたい。

先ほど提案②の活用法にて、子育てをしている主婦にとって必要な情報は「子ども関連」「地域のイベント」「保健・医療関連」であると述べた。移住者の主婦の多くは、なじむのに時間がかかったという声が多かった。はじめはこのサークルや集まりに参加したらいいのかわからないという声もあった。移住・交流課とイベント、サークル等の情報を共有して、外部や移住したての人にとって必要な情報をもっと発信したい。

5. 終わりに

今回野沢温泉村への2度にわたる現地訪問・調査に際して住民の方々や関係者の方々からの取材によって得られた当村の現状や課題から私たちは上記のような提言をさせて頂いたが、実際に取材を行った際に得られた“生の声”には当地域をより住みよい村として改善し、今後も住み続けていくという村への強い思いが多く存在しているように幾度となく感じられた。この点において私たちは外からの目線で当事者である住民の方々の思いを少しでも仲介し、地域活性の一助として求められているものを提言できていれば幸いに思う。加えて多大なご協力を頂いた野沢温泉村村長をはじめとした関係者の皆さまや住民の方々には深く感謝を申し上げ、今後も可能な限り実現へ向けてご協力を賜われることを重ねてお願いし、ここに記させて頂く。

(参考文献)

<http://ikouhoushi.jp/> (閲覧日 2015. 9. 26)

http://www.netratings.co.jp/news_release/2015/08/Newsrelease20150825.html (閲覧日 2015. 9. 26)

<http://www.koho.or.jp/columns/genba/index.html> (閲覧日 2015. 9. 12)

<http://www.city.iiyama.nagano.jp/soshiki/ijyuteijyusuisinka/ijyuteijyu>

<https://www.pref.nagano.lg.jp/sangyo/iju/soudan/index.html>

<http://www.furusato-iiyama.net/>

<http://www.rakuen-shinsyu.jp/>